

少年時代の追懷

佐治實然

行燈の下で十八史略の素讀、元の眞宗の僧侶で、播州姫路の東北三里半程の片田舎で、圓覺寺と云ふ寺に生れたものであります、其寺は小さい貧乏寺で、少年時代には随分貧乏生活を味はつたものであります、私の父は寺子屋を始めて、まだ其では會計を満たす事が出来ないで、瀬戸物屋から、茶碗や盃を取り寄せて、其繪を書く事を内職として居たものであります、其外に寺に家を傳として、乳一切の妙藥と云ふものを賣つて居りました、さう云ふ中で私等兄弟三人を父が育てたのであります、或る時、米の價いが非常に高い時がありました、其時は大きな釜に朝は脣を焼くやうな熱いお粥で晝は其さめて居る儘をたべるのであります、それに田舎味噌の鹽辛い味噌漬や香のものを副て

すますのであります、下駄の鼻緒は父が棕櫚繩をよつて心にし母が手織綿の着物に破れた小切れをもつて其の緒を拵へました、下駄の齒入も米搗きも人手を借りしてた事は一度もない、大抵私の両親がして居りました事を、今に覺へて居ります、今の青年たちには、殆ど分らん事だらうと思ひますが、私等の子供の時には、らんぶ等は勿論なかつた、況や瓦斯も電燈もあらう筈がありません、夜は、行燈の火の下で仕事を居たのであります、私等は紙燃細工をする、母と姉は、澁柿の皮をむいてつるし柿を拵へて居る、其側で私は十八史略の素讀をして居つた事等が今に心に恍惚として見へて居ります。

今猶耳の底に残る嘲弄的の歌
子供の時から、此貧乏寺の小僧として、村の子供等から嘲弄される事が非常に残念で、何とかして豪い人間になりたいと云ふ志が始終胸の中に溢れて居りました、坊主法界螺の貝一日吹いたら米五合、と村の腕白小僧が私に向て放つた嘲弄的の

歌が、今でも耳の底に残つて居ります、慶應三年私が十二の時、私の村から一里程北にある貫良法印と云ふ天台宗の學者の下に通學する事になりまして、其れから彼方此方と、漢籍の素讀や、講義を聴くやうになりました、私は小さい時から、どう云ふ譯か、十露盤が好きで、八算の手ほどきを人からして貰つて、あとは塵功記等を借りて開平開立までは一人でやりました、其時の面白味は今でも忘れられません。

福澤翁の西洋事情の感化

十六歳の時即ち明治四年に姫路に飾磨縣と云ふ縣廳が置れて、其時分始めて小學校が出来た、某時分小學校の先生と云へば、僧侶か醫者より外になかつたので、たまたに士族が教員になつたのも居りましたけれども、一般に洋算が出来ないので、私は算術が上手であるとの評判から郡費で更に算術を習ふ、ことになつて、小學校の教員に加減乗除から分數の初歩までを教へて歩く役を仰せつかつて、始めて月給を貰うたのであります。此時分に丁度福澤諭吉氏の「西洋事情」を始めて讀んで、私

の志は全く一新したやうな心持となりました、續いて「博物新篇」「氣海觀瀾」「輿地史略」等を讀んで之では西洋の學問をせねばならんと云ふ考へを深く其時に起しました。

大枚四圓の月給

十七歳の時、播州に中學校が四ヶ所設けられて、私は小野の中學校に這入りましたが、漢籍と洋算がどうかすると先生よりは少し能く出来たのでいきなり其中學校の舍監を仰せつかりました。

十九歳の時にはまだ丁年に達せぬに拘はらず縣廳に副戸長と云ふので出て大枚四圓の月給を貰ひました月給は四圓でも三十錢の旅費日當を給與されたので、始めて十圓の月給取りとなり始めて洋服と云ふものを着たのであります。これが明治七年であります。

其から二十二歳の時に、國を去て、京都に出て東京に出で、世路幾變遷、遂に今日のやうな、佐治實然となつたのであります、少年の時いくらか發憤の動機となりましたのはつまり寺が貧乏な寺であつたのと、村の子供等から輕蔑を受けたからで

あつたと信じて居ります。

都會の兒童菽麥を辨ぜず

高島平三郎 述

余は母の喪に丁り毎日大崎の寓を出でて池上の墳
 壁に詣ず。時々長兒（年十四歳にして中學校の一
 年生）を伴ひ二里にして近き野路を歩み路上目に
 觸るる草木の名を問ひ試む。其の無知の甚しき余
 をして喫驚せしむるものあり。因りて思へらく是
 れ偶々余が兒の特性自然物に對する興味薄くして
 然るならんと。其の後他の同年輩或は既に青年の
 域に入れる學生に就きて之を試むるに宛も我が兒
 の無知なるが如くに無知なり、都會の學校にて教
 育せられし兒童にかかる傾向ありとすれば教育者
 は之が改善に大に注意せざる可らず。近來教育の
 法議論徒に多くして實效之に伴はざるは一般の弊
 風たり。都會の兒童菽麥を辨ぜざるもの或は此の
 弊に基かざるを知らんや。ただ余の經驗は僅か二
 三の兒童に就きて之を検せしのみなは一般父母の

實驗に待つこと切なり。因に余が實物を指點して
 其の答を求めたる草木は左の數種なり。一般會員
 諸君が兒童に就きて之を問ひ試みその結果を報道
 せられんことを望む

- | | | | | | |
|---|-------|-----|----|------|-----|
| 一 | ケヤキ | 榊 | 十 | モミ | 樅 |
| 二 | エノキ | 榎 | 十一 | ヒロラギ | 柞 |
| 三 | タリ | 栗 | 十二 | ヒメ | 杜松 |
| 四 | クヌキ | 桐 | 十三 | カキ | 榧 |
| 五 | カシ | 櫻 | 十四 | ハシ | 黄櫨 |
| 六 | ヒノキ | 檜 | 十五 | ムクゲ | 榿 |
| 七 | カリヤマキ | 高野槭 | 十六 | コウゾ | 楮 |
| 八 | ナラ | 檜 | 十七 | カナメ | 扇骨木 |
| 九 | ツゲ | 黄櫨 | 十八 | ドクダネ | 蒨天竺 |
- 以上の中栗は榎果の附着せるものをば正當に答へ
 得たれどもその他は何れも之を知らず。桐に果實
 の附着せるをばドングリノ樹と呼べり。更に田畑
 に作れるものの中實物を知らざるもの左の如し。

- | | | | | | |
|---|--------|-----|---|------|-----|
| 一 | ハウレンサウ | 薄藜草 | 六 | キンゲン | 隱元豆 |
| 二 | ゴバウ | 牛蒡 | 七 | チカボ | 陸稻 |
| 三 | ミツバ | | 八 | ツケナ | 蘆菜 |
| 四 | アハ | 粟 | 九 | ソバ | 蕎麥 |
| 五 | モロコン | 蜀黍 | | | |
- (兒童研究)